

新しい生活の始まりです  
「入学式・入園式」

4月7日、町内の小中学校で入学式が行われ、新入生たちは新たなスタートを切りました。

今年の新入生は6小学校で男37人、女34人の71人。2中学校では男30人、女37人の67人です。

水沢小学校では、担任の先生を先頭に新入生が入場すると、点呼のときは体育館に響き渡る元気な声で「ハイ」と力強い返事をし、これから始まる小学校生活に目を輝かせていました。

八森中学校では、少し大きめの制服に身を包んだ新入生たちが、父兄や先輩たちに見守られ、少し緊張した面持ちで入場。点呼では元気よく



小学生への仲間入りをしました

「元気に帰ってきてね」を込めて  
北部地区少年水産教室  
「サケの稚魚の放流」

4月20日、県水産振興センターが主催する北部地区少年水産教室、サケの稚魚の放流が真瀬川河口で行われ、八森地区3小学校の3・4年生が参加しました。この教室は子どもたちに海や川、魚などについて関心を持ってもらうとともに、漁業や水産業の後継者育成につなげようと毎年開催しているもので、今年も5〜6センチメートルほどの稚魚約2万匹を放流しました。

サケの生態についての説明を受けた後、子どもたち一人ひとりに、稚魚の入ったバケツが手渡され、そつと川に放しました。子どもたちはかわい稚魚が泳いでいく姿を見送りながら、「元気に帰ってきてね。」と声をかけていました。



元気で帰ってきてね

「ハッパ」を伝える  
絵手紙教室

4月16日、ぶなっこランドで「こころを伝える絵手紙教室」が白神ナイチャー協会の主催で開催されました。

教室には大人から子どもまで15名が参加し、リンゴやバナナなどをモチーフに絵手紙作りに挑戦。講師の大高孝雄氏は「絵手紙とは自分が受けた感動を、絵にして相手に伝えるものです。自分が感じたありのままを絵にしてください。」と心を伝える

絵手紙作りのアドバイスをしていました。筆を握った参加者は、温かみのある素朴な絵手紙を作ろうと、味わいのある線や色どりを考えながら、真剣に取り組んでいました。

返事をしていました。佐藤校長は「新入生のみなさんは、それぞれすばらしい夢を抱いていると思います。その夢をかなえるためには努力が必要です。明るく、強く、正しく3つの約束を守り、前向きに楽しい中学校生活を送ってください。また、八峰町となって最初の一年生です。みんな一緒に新たな歴史と伝統を築いていきましょう。」と歓迎のあいさつを述べました。千葉八峰町長職務執行者は「八峰町が誕生して最初の入学式となります。八中の歴史と伝統を守り、自負と誇りをもって貴重な少年時代を悔い無く送ってください。」とお祝いの言葉を述べました。新しく始まる学校生活が楽しみです。



筆を手に真剣に取り組んでいました

多くの親子連れらが参加  
「キノコの植菌体験教室」

4月8日、「キノコの植菌体験教室」がぶなっこランドで開かれ、町内外から親子連れら約60人が参加しました。この教室はキノコの生産過程を知ってもらうと毎年行っているもので、今年で16回目となります。

この日は、ナメコや、シイタケの菌約1万個を用意。小雨が降る肌寒い天候にもかかわらず、参加者たちはホダ木の前にしゃがみこむと、「トントン」とリズムカルな音を響かせながら、楽しそうに体験していました。

休憩時間には、しいたけスープが振る舞われて体を温めました。また、作業終了後、一人ひとりに昨年のこの教室で植菌したホダ木がプレゼントされるなど、思い出に残る体験をしたようです。

体験時間には、しいたけスープが振る舞われて体を温めました。また、作業終了後、一人ひとりに昨年のこの教室で植菌したホダ木がプレゼントされるなど、思い出に残る体験をしたようです。



トントンと軽快なリズムが響いていました

全町クリーンアップ実施  
今年も大量のゴミが集められました

4月16日、全町クリーンアップが実施されました。

当日はあいにくの雨で、午前5時半に各地区ごとに集まった参加者は、悪天候の中、道路や、路肩などに落ちていたゴミを手分けして拾い集め、地域の美化のために頑張りました。

すべての地区から集められたゴミは4トンを超え、中には古タイヤや自転車などもありました。不法投棄は犯罪です。路肩や空き地等には絶対に捨てないでください。



きれいな町にと思いを入れて

プロ野球解説者衣笠祥雄さんが  
次世代を担う若者へエール  
若手後継者育成経営講演会

4月14日、ファガスで若手後継者育成経営講演会が白神八峰商工会主催で開催され、講師に元プロ野球選手の衣笠祥雄氏を招き、町内の中学生ら約350人が会場へ詰め掛けました。

講演のテーマは「限りなき挑戦」。野球に出会った中学生時代から、現役時代に2、215試合連続試合出場という世界記録を達成するまでの経験を振り返り、「明確な目標を持ち続け、何事も最後まであきらめないことが大切です。」と話し、かつて、鉄人と親しまれた陰には、不屈の精神力と忍耐があったことを聴衆に訴えながら、新しい時代を担う若者にエールを送っていました。

講演のテーマは「限りなき挑戦」。野球に出会った中学生時代から、現役時代に2、215試合連続試合出場という世界記録を達成するまでの経験を振り返り、「明確な目標を持ち続け、何事も最後まであきらめないことが大切です。」と話し、かつて、鉄人と親しまれた陰には、不屈の精神力と忍耐があったことを聴衆に訴えながら、新しい時代を担う若者にエールを送っていました。

講演のテーマは「限りなき挑戦」。野球に出会った中学生時代から、現役時代に2、215試合連続試合出場という世界記録を達成するまでの経験を振り返り、「明確な目標を持ち続け、何事も最後まであきらめないことが大切です。」と話し、かつて、鉄人と親しまれた陰には、不屈の精神力と忍耐があったことを聴衆に訴えながら、新しい時代を担う若者にエールを送っていました。

講演のテーマは「限りなき挑戦」。野球に出会った中学生時代から、現役時代に2、215試合連続試合出場という世界記録を達成するまでの経験を振り返り、「明確な目標を持ち続け、何事も最後まであきらめないことが大切です。」と話し、かつて、鉄人と親しまれた陰には、不屈の精神力と忍耐があったことを聴衆に訴えながら、新しい時代を担う若者にエールを送っていました。



偉大な選手と記念撮影

たくさん家族連れで賑わいました  
「第24回山村広場  
さくら祭り」

4月15日から30日にかけて山村広場では、第24回山村広場さくら祭りが行われました。期間中は天候不順のときもありましたが、家族連れなど約7,000人の人たちが賑わいました。

30日には、「轟轟戦隊ボウケンジャーショー」が行われ、特設ステージ前にはたくさん親子連れが詰め掛けました。子どもたちは憧れのヒーローに目を輝かせながら、迫力あるステージに見入っていました。また、ショーが終わったあとに行われた握手会では長蛇の列ができ、子どもたちはヒーローとの握手に感激していました。



憧れのヒーローと握手

4月15日から30日にかけて山村広場では、第24回山村広場さくら祭りが行われました。期間中は天候不順のときもありましたが、家族連れなど約7,000人の人たちが賑わいました。30日には、「轟轟戦隊ボウケンジャーショー」が行われ、特設ステージ前にはたくさん親子連れが詰め掛けました。子どもたちは憧れのヒーローに目を輝かせながら、迫力あるステージに見入っていました。また、ショーが終わったあとに行われた握手会では長蛇の列ができ、子どもたちはヒーローとの握手に感激していました。